

1面の続き

発表後の意見では、4年生から「プレゼンテーションにもう少しメリハリがあればどこが大切か分かりやすいと思う」という現役生らしいアドバイスがあった。また、柳田氏は「斬新な視点からのプレゼンテーションだった。自分探しをテーマにするツアーは多数あるが、行くぞと構えるよりも、皆が遊びに来ている隣で座禅を組みぼうがむしる修行者的。対比がある。海の部分も山でもあっておもしろい」と評価した。

【湘南比較地域論】
「リゾートとは何か」ということを主題に、湘南をフランスのコートダジュールと英国のプライトンと比較した。カンヌやニースなどのあるコートダジュールとビーチや

無事に合宿を終え、笑顔で記念撮影



また、1歩踏み出し、湘南がリゾートとして海外で知名度を上げるための策として、「和ていす」とを提案。「湘南の古い歴史がある日本のよさを強みにし、新たなリゾート

なぜ湘南の逗子や鎌倉、江ノ島のほうが人が集まるのかと考えると、単に泳ぐだけではなく、文化的な薫りが湘南にはあるのではないか。そこが首都圏に近いリゾートとして、ほかの地域と比べたときの強みだと思おう」と感想を語った。

最後は、湘南にゆかりのあるOBが2章にあたる「湘南文化論」を展開。湘南の歴史として鎌倉幕府の設立から、江戸時代には既に観光地として形成されていたこと、明治期の海水浴場、保養所の開設などを紹介した。それを踏まえ、湘南には定住型観光に必要な3つのS(南・海・風光明媚)があると提言。「健康」

をテーマに「訪問型観光」から「定住型観光」を目指す、首都圏から人の移住が成功すれば、疲弊し、縮小している他地域のモデルにもなり得ると提案した。

合宿のリーダーを務めた3年生の龍福裕太さん(写真前列の左から3人目)は「1泊2日のなかで密度の濃い時間を過ごせた。とても達成感がある」と合宿を振り返った。将来はディベロップーを目指しているという龍福さんは「合宿だけに終わらず、ステップアップの材料として次につなげられるような機会になれば、今日の発表を詰めていき、1冊の本にしたときに、実際の土地開発の参考にしてもらえるぐらいのレベルにしたい」と意気込む。

「開発の参考になる本にしたい」

と意気込む。